

## 平成8年度雨水浸透施設整備計画策定に関する調査等委託

全体期間

1996.7～1997.3

本文57P～59P

## (目的)

雨水浸透施設による雨水流出抑制手法が近年注目されるようになってきているが、横浜市では、

- ① モデル地区を対象に、浸透施設の浸透能および雨水流出抑制の評価に関する実験を実施し、「横浜市雨水浸透式下水道デザインマニュアル（平成4年度）」を策定し、
- ② 横浜市内の浸透施設整備対象地域を把握するため、浸透適地の抽出条件の検討を行い、それをもとに「雨水浸透施設設置基本計画図（平成6年度）」を作成した。

また、横浜市では現在、「下水道雨水貯留浸透事業」を進めていく上での課題である「浸透雨水が地下水や道路に与える影響の把握」を目的として、現地浸透実験を平成7～10年度に亘り実施中である。

本調査では、多くの浸透に関わる技術情報を体系的に整理し、横浜市の雨水流出抑制対策として、雨水浸透施設の導入を図る場合に必要となる効率的な雨水浸透施設整備計画の策定手法の提案および、現地浸透実験結果（初年度）から得られる知見のとりまとめを行うことを目的とする。

## (結果)

## 1. 下水道雨水浸透施設整備計画策定手法の検討

## 1-1. 現行「基本計画図」の評価

横浜市では雨水浸透施設整備対象地区の把握を目的に、浸透可能地図、雨水浸透施設設置適地図、雨水浸透施設設置基本計画図等の図面を作成している。本調査ではこれらの図面の作成経緯を整理し、作成手法の課題の抽出を行った。

## 1-2. 地理情報システムを利用した整備計画策定手法の提案

横浜市が保有する基礎情報を調査し、これらを有効に活用し、効果的な整備計画策定手法の提案を行った。この中で、特にGIS（地理情報システム）等の行政上のデータベースを業務支援に用いている部局に対して聞き取り調査を行い、同システムを利用した合理的な整備計画策定手法と、現状のデータベースにより検討が可能な項目についても検討を行った。

## 2. 下水道雨水浸透施設整備計画地区の選定

地理情報システムを利用した整備計画策定手法を検証するモデル地区として、帷子川流域を中心に対象地区を選定し、検証方法をまとめた。

## 3. 雨水浸透施設実験に関する調査

浸透実験の1年目の調査結果より、浸透ますにかなりの目づまりが発生していることがわかった。これは、浸透孔位置が底面のみであることが原因であると考えられる。

また、この実験結果を受けて、浸透孔位置の改善案及び維持管理面を考慮した提案を行った。

共同研究者：横浜市下水道局

財団法人 下水道新技術推進機構

研究担当者：前田 正博, 千葉 恭人, 石川 泰裕, 木内 悟

キーワード

雨水浸透, 浸透ます, 浸透トレンチ, 透水性舗装